

RAKUGO
THE
FUTUREJAPANESE TRADITIONAL
ENTERTAINMENT

ラクゴ・ザ・フューチャー

第八十八回

作家のネタ帳

文・田中啓文

今はそういうことをしていないが、以前、某所で小説講座なるものを担当していたことがあった。小説を書きたいというひとのためにその方法を教えるのである。何年かやったが、あまりに精神的負担が大きかったので辞めてしまった。というのも、自分でもおのれがどうやって小説を書いているのかわかっていないのにそれを他人に教えることなどできないからである。あれから何年たったのだろうか。いまだに小説の書き方はわからない。ただひとついえることは、私の場合、「ネタ」がなくてどうしようもないのである。ネタとは何か。小説をささえるアイデアである。それを思いつかないかぎりは、どんな作品も書きはじめることはできない。よく「ネタはどんなときに思いつくのですか」と質問されるが、それはわからない。小説を読んでいるとき。書いているとき。テレビや映画を見ているとき。ひととしゃべっているとき。何もしていないとき。風呂のなかで。電車のなかで。夢のなかで。ネタはいつ、天から降ってくるかわからないし、せつかく降ってきたネタも、忘れてしまっただけは何もならない。たとえば、大いさなで、火がとなりの部屋まで来ていて、大事な物を持ちださなくてはならない、という瞬間に「これは……！」というネタが降ってきたらどうか。うーん……ぜつたいに忘れてしまっただけでしょうね。だからネタ帳が重要になってくる。私はつねにB5サイズのノートを携帯しており、何か思いついたら、どんなくだらないことでもそこにメモることにしている。

はたから見たら不思議な光景だろうと思う。道を歩いていると、突然、横断歩道の途中でたちどまり、バッグからノートを出して何やら書きつけている。ときにはにやにや笑ったりしている。まさに「不思議なメモる」だ（これが言いたかった）。というわけで、今回はそのメモ帳を皆さんだけに特別に公開したいと思う。思いついたままを書いているので、使えるネタもないことはないが、ほとんどがしょーもない、あきれ果てるぐらいばかばかしいものであつて、なかには以前にどこかで使ったもの、誰かほかのひとがすでに思いついているものなどのダブリもあるだろう。だが、これが作家のネタ帳の真実なのである。え？ SF作家のネタつてどんなものか？ それはまあもちろん、科学知識を駆使した、宇宙的規模の、壮大なスケールのアイデアに決まっております。では、どーぞ。

・東京の花売り娘

「花尾くん、飯ができたぜ。おい、花尾」

花尾、飯だぜ。飯だぜ、花尾

・東京の花売り娘2

「今日は穴子飯か。うまそうだな」

穴子飯だぜ。飯だぜ、穴子。

・盗人（ぬすつと）シリーズ1

「盗人にもサンバのリ（ズム）」

・盗人（ぬすつと）シリーズ2

中国人窃盗団のボスは毛（モウ）、幹部は李という男だった。

「盗人に毛、幹部は李」

・盗人（ぬすつと）シリーズ3

（南北戦争のとき）現在、南軍を指揮しているのはリー將軍だ。

「そうすつと、今、南部はリー」

・盗人（ぬすつと）シリーズ4

先祖代々、泥棒を家業とする武田氏の家系

「盗人武田家（氏）」

・盗人（ぬすつと）シリーズ5

おいら、いくら洗っても盗人の臭いってえのが染みついちまってるんだ。なのに、おめえはそういう臭いがしねえなあ。

「盗人、臭いせん」（わかりにくい？）

・盗人（ぬすつと）シリーズ6

和歌子、おまえが泥棒だったとは……
「盗人を捕らえてみれば和歌子なり」

・わけあり

「これを、そちたちでわけあってくれ」
「わけあつて、それはいたしかねます」

・人体ネタシリーズ

臓器異色

膀胱を受ける

腎臓人間

ご心臓さん

NO！カス！痛い！

胆嚢しました

痔臓雑炊

new死亡（最近お亡くなりになったひとの意）

はっけ……キュウ！（行司がはっけよいと言おうとして失神した）
神した）

せっけ……キュウ！（石鹸取ってと言おうとして失神した）

・団地ばかりの街で

「この街、団地ばかりやな」

「ほんまや。ほかの街とは団地街や」

・リトル・マーメイド

「アリエルが人間になりたいんだって。ほんとかしら」
「あいつなら、ありえる」

・アメリカ国歌

双頭のイワシの旗のもとに

・一月の明智光秀

「敵は本能JANUARY」

・試してガッテン

「志の輔です。今日のクイズは、師弟対決です。さん
のところは師匠も弟子もだめですねえ。×印をつけておきま
しょう」

ダメ師弟、バツテン

・洪水

「こないだの台風でお寺が水につかったらしいで」
「だいじょうぶや。お寺は、水はけがええから。昔からよ
う言いまんがな、排水の寺院、て」

・苦しむミミ

夕食を取り終えたとき、突然、ミミが胸をおさえて苦しみだしたではないか！

ミミが苦悶。

・答のないクイズ

円谷英二は特撮の神様。
では、毒殺の神様は？

・岸壁の母シリーズ1

「餅は餅屋」に「餅は餅屋」にひかされて

・岸壁の母シリーズ2

「岸壁の母の名字は？」
「木下です」

母は木下〜

・岸壁の母シリーズ3

届かぬ。目が良いと知りながら。

・岸壁の母シリーズ4

「あなたは外国人ですが、岸壁の母ですか」
「いえ、イアン・ベツキーの母です」

・岸壁の母シリーズ5

「キツネくんのカンニングペーパーは木の葉っぱなんだね」

カンペ・木の葉っぱ

・赤とんぼ

香田家でお家騒動勃発。生まれたばかりの二号さんのこともを、正妻の一派が追いかけて、板の間の座敷牢にむりやり蟄居させた。でも、噂だからそう言ってるだけかもしれないけどね。

言うだけ。香田家の赤ん坊、追われて板の間、蟄の日か

・略奪愛の効用

「略奪愛は役立つわい」

・ファンタ

「ちよつとまえ、ファンタ・ゴールデンアップルが実在するかどうかでもめてたよね」

「え？」

「だから、ファンタ・アップルが実在するかどうかで……」
「実在するかどうかもめてるのは、ファンタ・クローズでしょ」

・風邪薬

「この便器、ブロックでできてるよっ」

便座ブロック

・ぼくたち大阪のこともやで

「あの子はぼくらの遊び場にあつまるところものなかでは、ヒロインやったな」

ぼくらの遊び場ヒロインや

・古書店にて叱る

「貴様ら、古書店なんかで古書古書するなっ」

・鳥の密告

「ホトトギスがなにか託卵でますぜ」

・雑誌の序列

「『本の雑誌』くん、そんなにへりくだらなくてもいいよ。もつとまんなかにおいでよ」

いえ、わたくし、ほんの、雑誌ですから。

・オリジナリティのある怪物

「悪魔の独特モンスター」

・ 殺した相手を煮る

「あなたは彼のことを恨んでいたんですね」

「ええ、ずっと憎んでいました」

「それで、彼を殺して、シチュー鍋で煮たんですね」

「ええ、ずっと煮込んでいました」

・ 魔法のゴキブリ

「こ、このゴキブリ、魔術を使いよるで！」

ゴキ幻妖

・ イラクの大阪人

「その車、ちょっととまれ。おまえ、この先に行きたいんか」

「行かいでか」

「歩いていくんか」

「歩かいでか」

「外国人をこの先に行かすわけにはいかへんのじゃ」

「……アルカイダか」

・ 甲斐バンド

ヒーローになる場所、それは居間。

・ ルーシーのひびくと

「あなたの恋愛運、占ってあげるわ、チャーリー・ラブ運」

・ある相撲取り

「わしは、暇さえあれば一日中、化粧をしている化粧魔で
「じわす」

化粧魔、わし

・似てる

「蚊に食われる」と「果肉、割れる」と「蟹、食われる」
は似てる。

・上方落語の四天王

「松鶴、米朝、春団治、文枝は上方落語の四天王と呼ばれ
てたけど、みんなえらい高齢やで」（松鶴、文枝は他界）
「そら、あたりまえや。四天王は昔から年寄りに決まっとる」

四天王爺さん、ゆうぐらいやから。

・何となく思いついたこと

モロ平野

グリ高原

鈴木台地

おさむ盆地

フレッド・セイバー平原

・何となく思いついたこと2

暴言ダン吉

悟空の大暴言

日本暴言作家クラブ

・大きなのっぽの古時計

「あと百円安かったら買っただけですけどね、まけていただけませんか」

「無理ですね。このあたりの店、どこできいてもらってもけっこうですけど、この値段から百円引いてる店は、まずないです」

「そこをなんとか」

「いや、だから無理ですってば！」

「無理は承知でお願いしてるんですよ。頼みますよ！」

百円安、まずない。

しっくはしっくしっくはしっく。

・獅子舞ネタ

こまどり獅子舞

叶獅子舞

三人獅子舞

これでお獅子舞

獅子舞にや怒るで

・「よひすい」二題

井上陽水の曲のカラオケは？……陽水オケ

産婆さんが赤ん坊をとりあげるときに使う桶は？……羊水桶

・ ZARDのCM

「ZARDがソニーのVAIOのCMに出てるよ」

VAIOはZARD

・ ハワイ航路

「あのお爺さん、九十歳すぎても歯が丈夫なんですって」

「じゃあ、あの好々爺風の老人が例の……」

あーあーあー、あれが例の、歯は良い好老。

・ そうか？

春団治とバルタン人は似てる。

・ 雨上がりの夜空に

「俺の彼女、同志社短大に通う女子大生なんだぜ。イエーイ」

同志短大、へへい、ベイビー。

・ 秋田県民による「みんなのうた」

秋田の人A「岡山名物のママカリちゅう魚は、あんまりうもうて、飯（ママ）がいくらでも食えるんで、隣の家にもママを借りていくちゅうところから名前がついたらしいが、わが秋田名物のハタハタのほうかうまいべ」

秋田の人B「ハタハタでも、飯（ママ）、いくらでも食えるかのう」

秋田の人A「あたりめえだべ。ハタハタママちゅうてな」

・綾辻さん

全体に小豆餡が充満している空間！

そのなかで起こる連続殺人！

「餡コ空間の殺人」

・フランス料理の極意

昔、冷蔵技術が発達していないころ、ヨーロッパでは、酢で肉の腐敗臭を消していたという。

「腐乱・酢料理」

・何となく思いついたこと3

須川三兄弟

インダ・須川

ガンジ・須川

アリ・須川

・イカの種類

アオリイカ

スミイカ

スルメイカ

モンゴイカ

ダイオウイカ

ヤリイカ

ホタルイカ

……

……

……

イカ同文

・イカの種類2

アオリイカ

スミイカ

スルメイカ

モンゴイカ

ダイオウイカ

ヤリイカ

ホタルイカ

……

……

……

残念じゃ、イカが多すぎて数えられんわい！

「ご無念はイカばかり……」

・イカの種類3

「今度、スルメイカを材料にした和紙ができるそうですよ」

イカが和紙い話だ

・イカで笛を作る

わたしや音楽家、山の小鳥

上手に、生きたイカを笛にして、吹いてみましょ

ぴびぴっぴっぴっ、ぴびぴっぴっぴっ

ぴびぴっぴっぴっ、ぴびぴっぴっぴっ

イカがdeath

・ありがちか？

「武田鉄矢って参議院に立候補するんだって」

3年B組金バツチ先生

・病院の待合室にて

「あんだ、胃が痛いねんて？ それ、たぶん胃腸カタルやわ」

「そんなんわかりまっか」

「わしもまえにやったことあんねん。経験者はカタルや」

・おもいで酒

タクシーの運転手に「四天王寺までお願いします」と言ったら……。

「無理。四天王寺にや行けない」と

・おもいで酒2

知る人ぞ知る山奥の温泉。だが、入りかたがむずかしいらしい……。

「あの秘湯、どうして入るかしら」

・深海魚

コウモリダコが知っている（わははははははは）

・森の春

森はもうすっかり春。あちらこちらに新しい木の根がはりだしてきています。

それでは、気象予報士のトリトンさん、どうぞ。

「森春根ーっ！」

・哲学

「人間は考えるは死である」

・そうか？2

「羊頭狗肉」と「常套句・二句」と「城東区・二区」は似ている。

・船場の惨劇

血で丁稚を洗う

・自由を求める女子高生

制服を脱ぎ捨てて、私服のときを過ごす。

・すごくいいネタだが、誰かとかぶってるかもしれない

「許す」

「マジ？」

・仏門に入った星飛雄馬

血の汗流せ、阿弥陀を拭くな

というわけで、作家のネタ帳いかがだったでしょうか。こういうアイデアがそのうちに作品に昇華していくんですね。え？ どの作家もやっているのかって？ もちろんですよ。